

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会（第26期・第3回）
議 事 要 旨

1. 日 時 令和6（2024）年9月6日（金）13時00分～15時00分

2. 会 場 オンライン開催（Zoom）

3. 委員出欠

出席者：沖大幹、三枝信子、江守正多、春日文子、亀山康子、蟹江憲史、狩野光伸、
神原 咲子、近藤康久、谷口真人、張勁、橋爪真弘、福士謙介、山内太郎、山下潤、
渡辺知保

欠席者：鈴木康弘

オブザーバー：堅達京子、佐座慎苗、山本百合子、Ria Lambino

事務局：新田 浩史、齊藤 美穂、佐藤 有純

4. 議事内容

開会に当たり、事務局より定足数を満たしている旨の報告があった。

1) 第26期・第2回の議事要旨の確認

沖委員長より第26期・第2回のメール審議の議事要旨に基づき、分科会の設置が承認されたとの報告があった。

2) 連携会員（特任）の推薦について

沖委員より資料2に基づいて説明があった。

江守委員より推薦理由の説明があり、連携会員（特任）の推薦を承認した。

3) 第26期における本委員会の進め方について

委員間で意見交換を行った。主な意見は次のとおりで、議論は次回の委員会に持ち越すこととした。

- 次回以降、文部科学省研究開発局環境エネルギー課の課長にオブザーバー参加を要請する。
- Sustainability Research + Innovation Congress との連携の在り方について検討したい。
- SDGs の推進、特にそのボランティアナショナルレビュー（VNR）に貢献するための分科会を設置したい。

4) Future Earth の活動近況、特に総会報告について

春日委員から資料に基づいて説明があり、委員間で意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- 日本ハブとスウェーデンハブが運営を担った今年の総会での経験と知識を継承できるメカニズムを作ったら良い。

- Sustainability Research + Innovation Congress と Future Earth の関係性について、考え直す必要がある。

5) 日本における Future Earth 研究の推進について

委員間で意見交換を行った。主な意見は次のとおりである。

- アジアの中で活動は進展しており、テーマを出し合って、どのようなネットワークを組んで進めるべきかを検討したい。
- Future Earth 日本サミットとの連携の観点で、本会と FE・WCRP 分科会の両方が日本委員会に協力してはどうか。
- 次回は、Earth Commission の現状と課題について議論する。

6) その他

次回は、今年度中を目途として、日程調整を行うこととする。

以上